

第 66 回全日本学生拳法選手権大会開催における新型コロナ感染対策ガイドライン

第 66 回全日本学生拳法選手権大会
大会会長 藤川良典

大会名称 第 66 回全日本学生拳法選手権大会
開催日時 令和 3 年 11 月 14 日 (日) 09 : 30 ~
開催会場 エディオンアリーナ大阪 (大阪府立体育会館)

本大会開催に際しましては大会役員で種々討議を重ねて参りましたが、緊急事態宣言が解除され社会・経済活動が再開され、都道府県移動自粛も解除されました。

この社会状況を鑑み、本連盟加盟大学に練習活動を調査致しましたところ、既に練習再開し本大会開催を要望する多数の声が寄せられました。

そこで、専門家「感染症専門医」と感性防止対策指導をもとに大会主催者としてのガイドラインを作成し、このガイドラインを遵守することで本大会開催を決定致しました。

しかしながら、変化する社会情勢(コロナ感染状況)をリアルタイムに検証し、大会中止も視野に入れて冷静着実に判断致します。

本大会の種々の情報提供は随時、学連ホームページに掲載します。

感染予防対策ガイドライン

10 月全日本学生個人戦での本大会抽選会を行わず主催者が規定に則って厳正に行う。

選手・指導者・大会役員は大会開催日より逆算して 2 週間分の体調管理 (体温 37.5 度以上、その他の体調不調) して保管しておく。体調不調の者は参加させない。

なお、同居家族の体調不良についても報告することとする。

選手・指導者は代表監督の責任において確認管理 (FM は各大学作成) する。

大会役員は大会会長の指導のもと各部署で確認管理する

例年実施の大会前日主将会議の有無は後日連絡。

館内入場者は全て ID カード(指導者証・学生 ID カード・大学別 ID カード)の着用義務、着用なき場合は入館不可

会場収容定員 5000 人に対して 1000 人未満の入場制限とし、一般来場者・来賓の会場観戦は不可とし場内全て「ソーシャルでスタンス確保」とする。

出入口分別各 1 箇所とし、入り口では消毒と検温を実施。

この消毒と検温は各大学で準備して、指導者が責任を持って行い。主催者発行の用紙(消毒・検温済み問題なし)に署名し入り口にて提出。

2 階観客席(選手・指導者、関係者待機場所) 4 カ所・メインアリーナ入り口 4 カ所に消毒毒液設置

会議室・大会運営本部のキャパに合わせて入場制限する。アクリル板の設置。

本大会全参加者にココアアプリの導入依頼。

開会式・表彰式・閉会式は行わず来賓招待も行わない。

各大学午前9時開場・午前10時試合開始に会場入り～敗戦校は順次帰宅。

入賞校は別室にて代表者が表彰状・副賞の授受を行う。

メインアリーナには観客席配置は行わない。観客席は2階のみに配席。

応援は本学連に登録された部員・マネージャーと ob のみとして、一部の保護者や教育関係者は予約制(各大学で予約人数を掌握)で許可制とするが、入館人数制限として試合出場選手を含めて30名以内とする。一般観戦参加者の入場は不可とする。応援団の参加は見送る。

優勝校の学歌斉唱は行わない。

選手・指導者試合前の円陣（士気鼓舞）は禁止。

選手・指導者・観客共に声援は行わず応援は拍手とする。

選手の給水は各自個別のものを準備する。

入場者全員、こまめな手洗い。うがいの励行。

大会会場内の全参加者（含む保護者・on 等観客）のマスク着用義務。

各大学でマスク予備相当数を確保して持参する。

試合時における選手も面下にマスク着用義務。

審判員のフェースシールド着用義務。

食事は決められた場所以外では禁止し、食後の始末は各自主催者ルールを順守する。

大会中・大会終了帰宅後でも体調変化・体調不良が確認された場合は、速やかに大学指導者に報告して指示に従うと共に大会主幹団体委員長に報告すること。

トイレも最小限の使用可とし。他は閉鎖する。

メインアリーナ内は選手・指導者・大会役員もスリッパ(上履き)着用義務とし、選手は試合入場口でスリッパ(上履き)を脱着。

大会終了後は清掃業者と共に会場責任者立ち会いの下で消毒作業を実施。

ゴミの廃棄は完全分別して専門業者廃棄処分とする

本大会参加大学は大会終了後2週間目に最終安全確認を各方面委員長に行う。

※ その他は第66回全日本学生拳法選手権大会 事故防止・公衆衛生管理対策についてを遵守する。本ガイドラインは日本スポーツ協会作成のスポーツイベントの再会に向けた感染拡大予防ガイドラインを参考にして、本連盟産業医のアドバイスをうけて作成しました。

本大会全関係者に日本スポーツ協会作成のスポーツイベントの再会に向けた感染拡大予防ガイドラインを事前配布して研修させています。